

作成番号:0284

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-284

内容:世界中で 43 秒に 1 人が自殺により死亡している

出典:Global, regional, and national burden of suicide, 1990–2021: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2021.

The Lancet. Public health. 2025 Mar;10(3);e189–e202. doi: 10.1016/S2468-2667(25)00006-4.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39986290/>

米ワシントン大学医学部の研究者らによる自殺リスクに関する新たな世界的評価の研究結果は、「The Lancet Public Health」に 2 月 19 日掲載された。世界中で 43 秒に 1 人が自殺により死亡していて、2021 年の統計では自殺による死亡者数は男性の方が女性に比べて多かったが、死亡には至らない自殺未遂の発生率は女性の方が男性よりはるかに高かった。

世界疾病負担研究 (GBD 2021) の推定データを基に、1990 年から 2021 年までの間の 204 の国と地域での自殺による死亡数、および年齢調整死亡率を分析し、経時的推移や年齢・性別・地域ごとの違いなどを評価した。2021 年には世界で 746,000 人が自殺により死亡したと推定され、約 43 秒ごとに 1 人が自殺により死亡していることに相当する。死亡者の内訳は、男性 519,000 人、女性 227,000 人であり、この年における自殺の年齢調整死亡率は、男性の方が女性より 2 倍以上高かった (男性:12.8 人、女性 5.4 人)。自殺による年齢調整死亡率は、1990 年の 14.9 人から 2021 年には 9.0 人へと経時的に 39.5%低下していた。低下率は、男性の方が女性よりも低かった (男性 33.5%、女性 50.3%)。地域別に見て年齢調整死亡率の大幅な改善が認められたのは東アジアであり、1990 年の 21.1 人から 2021 年には 7.2 人へと 65.7%減少していた。2021 年に自殺による年齢調整死亡率が最も高かったのは、東ヨーロッパ (19.2 人) だった。自殺による死亡時の平均年齢は、1990 年の 42.6 歳から 2021 年の 47.0 歳へと徐々に上昇していた。男女別に見ると、男性では 1990 年が 43.0 歳、2021 年が 47.0 歳、女性では 41.9 歳と 46.9 歳だった。

